

カマドを構築していた粘土が崩落か？（熊野遺跡第188次調査）

令和4年9月1日（木）～9月27日（火）までの間、熊野遺跡第188次発掘調査を行いました。



調査区全景



第1号竪穴建物跡 検出状況

熊野遺跡は、深谷市岡地内に所在する遺跡です。過去の調査では、多数の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、石組みの井戸跡などが確認されています。また、役人が使用したとみられる円面硯や水滴なども出土していることから、当遺跡は榛沢郡家と関係する遺跡であったと考えられています。

今回の調査では、竪穴建物跡2軒、土坑3基、ピット15基が検出されました。

中でも、調査区西側に位置する第1号竪穴建物跡からは、比較的残存状態の良い須恵器や土師器が検出されました。また、その東側に位置する第2号竪穴建物では、小さな土師器片が数点出土する程度でしたが、調査区の壁面隅から硬質な粘土の塊が検出されました。その検出位置や土の堆積状態から見て、これは第2号竪穴建物跡に造られたカマドを構築していた粘土材が崩落したものと考えられます。



第1号竪穴建物跡 遺物出土状況



第2号竪穴建物跡 カマド構築粘土出土状況